

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A 中学校)

創立 50 周年記念行事として実行委員を中心に以下の取組を行うことで、学校への帰属意識が高まり、愛校心や他者への思いやりが深まった。

① A 中のキャラクター募集とその投票

キャラクター設定についての説明に地域や A 中学校へのへの思いが込められ、投票する生徒たちもその内容をよく読んで理解したり共感したりした上で選んでいた。



② 記念式典の準備、当日の発表

周年行事委員と美術部が協力してスローガン作成などの創作活動を行い、実行委員から美術部への作業内容の依頼や指示、お互いのアドバイスなど生徒同士の協働的な活動が見られた。また当日の感想には、実行委員への感謝の言葉が多く見られた。



【取組2】(B 中学校)

生徒会による「他学年交流」を実施した。他学年との交流を深めることと、身体能力の優劣なく全ての生徒が楽しめるようにすることを目的に、レクリエーション(「じゃんけん列車」と「震源地」)を行った。穏やかな雰囲気の中、行事の名前通りの他学年との交流を楽しむことを、生徒自身の力で進めることができた。

【取組3】(B 中学校)

校内支援会議で話題にあがった生徒を中心に授業観察を行い、生徒の様子を授業者や学年にフィードバックした。その際、気になる点ばかりでなく、長所や努力できている点を見付け、積極的に伝えた。学習への取組の様子、他の生徒との関わり方を見ることで、支援方法を検討することができた。

【取組4】(A 中学校)

校内研修「不登校児童・生徒への適切な対応に向けて」を職員に向けて実施した。魅力ある学校、学年、学級にするための取組として「学校での役割づくり」、「学習の不安への対応」、「学年・学期はじめの人間関係づくり」という3項目について、具体的にしている工夫を協議してもらった。

多様な学びの場を確保する取組

(「早期支援」及び「長期化への対応」の取組)の推進

支援会議 (A・B 中学校)

SC や子供と家庭の支援員、SSW 等の支援内容の共有、支援内容の確認方法を整理し、周知した。

長欠生徒の三者面談の内容(現在の様子、保護者の意向、本人の意思及び目標など)を担任から聞き取り、一覧にまとめ、支援会議で周知し、今後の支援に役立てた。

アウトリーチによる支援 (A・B 中学校)

別室に登校する予定の生徒が欠席した際に、家庭訪問を行い、様子を見に行った。

登校できていない1年生の生徒の家庭訪問を行った。保護者の気持ちが楽になるように、ゆっくり話を聞いた。

校内別室に登校する生徒を学校の近くまで送り迎えした。

校内別室における支援 (A 中学校)

校内別室で過ごす時間を、パズルや折り紙など「創作」の時間、トランプや言葉遊びなど「コミュニケーション」の時間、読書や漢字などの「学習」時間の3つに分け、見通しをもって過ごせるようにした。漢字の練習から自信を付け、定期考査で国語を受験した生徒、「創作」に興味をもち登校日数が増えた生徒、「コミュニケーション」の時間から仲が良くなり一緒に登下校する生徒など、生徒自身が成長したり生徒同士のつながりができたりした。



デジタル機器を活用した支援

不登校生徒と担任がオンライン会議システムを使用して、コミュニケーションをとった。AI型デジタルドリルに取り組む生徒もいた。別室に登校する生徒が興味をもっている内容を一人1台端末で調べる等の学習も行った。

関係機関との連携

(B 中学校)

毎週、教育支援センターを訪問し、生徒、指導員とコミュニケーションをとって情報共有を行っている。

(A 中学校)

生徒と子ども家庭支援センター等とのケース会議に参加した。その後の生徒の様子を報告する等、連携を続けた。

成果

様々な取組を通し、即時的な成果は表れずとも、学校とつながっている生徒が増えている。

課題

学習面で自信のない生徒が多く、別室に登校する生徒や自宅で過ごす生徒のいずれに対しても学習面の支援が必要である。